

第三十一回帝國議會 戶籍法改正法律案外三件

(明治三十八年法律第六十二號中改正法律案
寄留明治四十三年法律第三十九號中改正法律案) 委員會議錄(速記)第七回

大正三年三月九日午後一時四十五分開議

出席委員左ノ如シ

長島 鷲太郎君 瓢 純義君 島田 俊雄君

鵜澤 總明君 直太君 工藤 吉次君

光森 德治君 荒川 五郎君

齋藤 隆夫君 大口 喜六君 山谷 虎三君

出席政府委員左ノ如シ

司法院次官法學博士 小山 溫君

司法院參事官 鈴木喜三郎君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

戸籍法改正法律案

明治三十八年法律第六十二號中改正法律案

寄留法案

明治四十三年法律第三十九號中改正法律案

○委員長(長島鷲太郎君) フレデハ開會致シマス、質問モ濟ンダヤウデアリマスカラ、

本日ハ討論ニ移リ——逐條審議ニ移リタイノアリマス

○荒川五郎君

チヨット質問ガアリマス

○委員長(長島鷲太郎君) 御待チナサイ——何レ修正ノ御意見が出ヤウト思ヒマス

ガ、ソレニ付テ條文ニ關シテノ質疑ハ一向差支ザイマセヌカラシテ、順序トシテ逐條ニ

付キテ致シマセウ

○島田俊雄君 今日ハ討議中ニモヤハリ質問ハ差支ナイトシマシテ、一章毎ニ順々逐

テ成ルベク一章ヲ一括シテ頂キタイノアリマスガ、唯今承リマスレバ、第四條ノ賠

償責任ノコトニ付テハ齋藤君カラ修正ノ御意見が出て居ルヤウデアリマスガ、是ハ可ナリ

大ナル問題デ、先達ア司法大臣モ之ニ付テ辯明セラレタヤウナ次第アリマシテ、議論ノ

タ後トニ残シテ頂キタイト思ヒマスガ、齋藤君如何デゴザイマスカ

○齋藤隆夫君 一向差支ガザイマセヌ

○島田俊雄君 サウスルト此分ダケヲ除外シテ、第一章カラ順々逐フテ一ツ御頼ミシタ

イト思ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) ソレデハ第一章、戸籍事務管掌ト云フ第一章第一條カ

ラ第八條ニ瓦ツテ

○工藤吉次君 チヨット政府委員ニ伺ヒタ、第四條ヲ是ハ其戸籍事務管掌ニ規定シタヤウデアリマスガ、第四條トシテ真シニアリマスガ、第七條ノ前當リニヤルノガ宜イ

ト思ヒマスガ、此所ニ置イタノハ何等カ理由ガアリマスカ

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 是ハ準用ノ關係カラ致シマシテ、此七條ノ後トニ持ツテ來ル譯ニ行キマセヌアリマス

○工藤吉次君 七條ノ直前ノ方ニ置ク方ガ宜イヤウニ思ヒマス

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 是ハ監督カラ責任ヲ極メマシテ、ソレカラ今度ハ代理者等ヲ極メタ譯カラスウ云フコトニ致シマシタ

○司法省參事官(山内確三郎君) 本統ニ市町村長ニ關スル規定ニアリマシテ、五條以下ハ市町村長ナニテ、大變長イモノヲ書カナケレバナリマセヌカラ、先キノ四條ニ於キマシタノテ複雜ノ規定ニナルト思ヒマス

○島田俊雄君 私ハ第八條ニ付テ修正意見ヲ提出シタイト思ヒマスケレドモ、是ハ先

キノ方ノ條文ニ關係ノアル事アリマスカラ、此所ニ付テ提出スルコトヲ留保シテ置キマス、サウシテ第一章ニハ修正意見ハゴザイマセヌ

○大口喜六君 私モ第八條ヲ修正シタイト思ヒマシテ、御手許マテ修正意見ヲ出シテアリマスガ、或ハ島田君ノト一致ハセヌカト思ヒマスカラ、ソレナレバ其時ニ出シタイト思ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) 第二章、戸籍簿、第九條ヨリ第十七條マテ……

○島田俊雄君 第九條ニ付テ一ツノ修正意見ヲ出シトイ、本條ニ「戸主ヲ本トシテ一戸毎ニ之ヲ作ル」ト書イテアリマスガ、此法律ノ全體ヲ見マシテモ、ソレカラ又民法等ノ規定カラ考ヘテ見マシテモ、尙又現行法ニ付テ之ヲ對照シテ見マシテモ、一方ニ於テ一戸毎ニ「ト云フコトヲ書イテアル以上ハ「本トシテ」ト云フコトハ重複ニナルヤウニ思フ、殊ニ此法律ハ拝ヘ方ノ大體ノ主義ト言ヒマスカ、法文ノ書キ方ハ重複シテ居ルモノハ成ルベク除クト云フ方針ニ出テ居ルヤウデアル、此所ダケ重複ニ書イテアルノハ、先日御説明ニナリマシタ家族主義云々ト云フコトヲ主トシテアルト思ヒマスガ、茲ニ二重ニ書イタカラ

ト云シテ、家族主義ニ何等ノ影響ヲ及ボスモノハナイ、殊ニ文章ノ見面ラモ惡イヤウニ思ヒマスノテ「戸主ヲ本トシテ」ト云フ七字ヲ除イテ、ソレカラ一番終リノ「作ル」ト云フ字ハ現行法ノ通り「編製ス」ト云フ風ニ改メタイ、即チ「戸籍ハ市町村ノ區域内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ」戸毎ニ之ヲ作ル「トシタ方ガ宜イト思ヒマス

○荒川五郎君 私ハ「市町村ノ區域内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ戸主ヲ本トシテ」ト云ヲ改メテ「戸籍ハ本籍ヲ有ス市町村ニ於テ」戸毎ニ之ヲ作ル「トシタ方ガ宜イト思ヒマス

○法學博士鵜澤總明君 唯今修正案が出マシタガ、此「戸主ヲ本トシテ」ト云フコトハ、政府ノ立案ニ方カラ申シマスト、日本ノ民法其他ノ法制ニ於テ家族制度ヲ十分ニ擁護シテ行クト云フ精神ガ徹底シナイヤウナ虞ガアルカラシテ、ソコデ此戸籍法ニ於テ戸主ヲ本トスルト云フコトヲ明白ニシテ、サウシテ此家族制度ノ精神ヲ貫キタイト云フ趣旨ニ於テ、斯ノ如ク立案サレタモノデアルト云フヤウニ承テ居リマスガ、吾ミノ考フル所ニ

依レバ、既ニ民法ノ規定ニ於テ戸主ト云フコトが一戸ノ基本ニナル、即チ家族制度ヲ民法が大體ニ於テ認メテ居ルトスレバ、其中ノ家長即チ戸主ト云フモノガ基本トナツテ居ルト云フコトハ殆ド疑ナシ所ニアリマス、ソレカラ此戸籍ノ法案ノ第十八條等ニ依リマシテモ、記載ノ順序ニ依テ自ラ戸主ガ基本ニナル、十九條モ「戸主ヲ本トシテ」ト云フ文字ヲ削ルト云フコトハ非常ナ差支ガアルト云フ趣旨モアリマセウカ、此點ヲモウ一應承テ委員會ノ協議ヲ盡シタ方ガ宜カラウト思ヒマス

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 解釋ト致シマシテハ、十八條ノ規定ガアリ、或ハ民法ノ規定ガアリマスカラ、戸主本位デアルト云フコトが分ラヌデハナカラウカデアリマセウケレドモ、立案ノ趣旨ニ於キマシテハ、一層明確ヲ期スル所カラ、戸主本位ト云フコトヲ戸籍法ニ定メテ置クト云フコトが必要デアラウト云フ意味ニ於テ「戸主ヲ本トシテ」ト云フコトヲ定メタノデゴザイマス、ソレダケ御答シテ置キマス

○島田俊雄君 ソレデ一ツ御相談シテ見タイト思ヒマスガ、若シ此「戸主ヲ本トシテ」ト云フノガサウ云フ意味デ大變重要ト御考ニナツテ居ルナラバ、其後ニアル「戸毎ニ」ト云フ字ヲ削ルト云フコトハドウデス、是ハ重複ト云フ御考ハアリマセヌカ

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 是モ解釋ノシャウニ依テハ重複ト云フ御議論ガアルカモ知レマセヌガ、上ノ方ハ戸主本位デアルト云フコトヲ示シ「戸毎ニ之ヲ作ル」ト云フコトヲ明瞭ニスルタメニ之ヲ重ねタ次第ニアリマシテ、議案ノ趣意ト致シマシテハ文章上斯クスル方が宜カラウト云フ意味デ、何レヲ削除スルト云フコトモ少シク困難ニ感ズルノデアリマス

○法學博士鵜澤總明君 唯今ノ御説明ニアリマスガ「一戸毎ニ」ト云フ「一戸」ト云フノハ有形ノ戸デスカ、或ハ無形ノ戸——無形ノ戸ト言フト、戸主ガアツテ其戸主ノ下ニ集團シテ居ル一家族ト云フコトニナルノデアリマスガ、此「一戸」ハドチラヲ指シタノデアリマス

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 勿論有形ノ家屋ト云フ意味ノ一戸デハナク、家族集團ノ一戸ト云フ意味ニアリマス
○島田俊雄君 一寸私ハ疑問が起シタノデス、此「一戸」ト云フノヘドウ云フ據り所カラ成ルノデス、一家ト云フ意味デスカ

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 家ト申シマシテモ戸ト申シマシテモ、有形ノ建設物ト云フノデハアリマセヌ、所謂一家籍一戸籍ト云フ意味デアリマス

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) サウデス

○大口喜六君 荒川君ノ修正ニ付テ一寸政府委員ニ伺ヒタ「市町村ノ區域内」トアリマスガ「市町村内」テ分リサウナモノニアリマスガ、特ニ區域ノ文字ヲ用ヒラタノハドウカ意味ガアリマセウカ

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) ソレハ市町村内デモ或ハ管轄區域内ト解釋が出來ルカ知レマセヌガ、一ツノ市町村ガ管轄シテ居ル其ノ管轄區域内ト云フ意味カラ致シマシテ、區域内ト云フコトニ致シタノデゴザイマス、而シテ市町村ノ管轄區域ト云フ風ニヤルト、裁判所ノ管轄區域ト云フヤウナ風ニナルカラ、管轄ト云フ文字ハ除イ

タノデアリマス

○島田俊雄君 唯今政府委員ノ御説明ヲ承リマシタ所ニ依レバ、此「戸主ヲ本トシテ」ト云フ語ト「一戸毎ニ」ト云フコトハ別様ノ動ヲ爲ス意味ヲ含マセラレテ居ルト云フコトデアリマシテ、之ヲ削ルト云フコトニハ御異議ガアルト云フコトデアリマスカラ、其御異存ヲ容レテ「戸主ヲ本トシテ」ヲ削ルト云フ修正ハ撤回ヲ致シマシテ、終ノ「作ル」ト云フコト「編製ス」ト云フダケノ訂正ニ止メタイト思ヒマス、サウ云フ風ニ修正ヲ又修正致シマス

○委員長(長島鷲太郎君) 荒川君ノ修正意見ハ……
○荒川五郎君 「戸籍ハ本籍ヲ有スル市町村ニ於テ一戸毎ニ之ヲ作ル」
○光森德治君 「編製」ト云フコトニナルト、戸籍ハ一戸籍ヲ編製シタト云フコトニナリマスカ

○法學博士鵜澤總明君 此「一戸毎ニ之ヲ作ル」ト云フノハ現行法ニモアリマス、ソレカラ大寶令ナドニモヤハリ「作ル」ト云フ文字ガ使ッテアル、併ナガラ此「作ル」ト云フ趣旨ハ多クハ職權主義ア、届出ニ依ラズシテ政府が自由ニ戸籍ヲ作ッタ場合ニ此「作ル」ト云フ字ヲ使ッテアルト思フノデアリマス、所ガ現行法ニ於テモ身分登記ノ方ニナリマスト、ヤハリ「編製」ト云フ字ヲ使ッテアル、ソレカラ其外ノ場合ニモ大抵此「編製」ト云フ字ヲ使ッテアリマス、ソコデ戸主ヲ本トシテ各家族ノ子供デアルトカ、或ハ親デアルトカ、或ハ孫デアルトカ云フ順序ニ於テ戸籍ヲ編ンテ行クノデアリマスカラ、實際ハ編製——ドウ云フ風ニ作ルカト云ヘバ、則チ編製デアルトカ云フヤウナ事ニシタ方ガ、精神が能ク貫クデヤナカラウカ斯ウ思フノデアリマス、ソコデ文字ノ統一カラ云ヒマシテモ、第十五條ナドニハ再ビ作ル場合ハ「司法大臣ハ其再製」再製ト云フノハ即チ再編製ノ事ダラウト思フ、ソレカラ案ノ最後ノ方ノ附則ノ處三百八十四條ノ一項ニ「司法大臣ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ本法ノ規定ニ依リ戸籍ヲ改製スヘキコトヲ命スルコトヲ得」改メ製スルト云フ字ヲ使ッテアル、ソレカラ百八十五條ニモ「舊法ノ規定ニ依リテ改製セサリシ戸籍ハ司法大臣ノ命スル所ニ依リ本法ノ規定ニ依リテ之ヲ改製スルコトヲ要ス」斯ウ云フヤウニナツテ、文字ノ方カラ見マシテモ「製」ト云フ字ヲ使フ方ガドウモ釣合ガ能ク取レルヤウニ思フノデアリマス、ソレカラ歴史デアルトカラ編製スルヤウニ編ンテ作ッテ行ク譯ニナル、編別ヲシテ作ッテ行ク譯ニナルカラシテ、ヤハリ此「編製」ト云フ字ニシタ方が適當デヤナカラウカ、斯ウ私共ハ考ヘルノデアリマス、併ナガラ「作ル」ト云フ文字ハ大寶令時代カラアル文字デアルカラ、一ツ骨董的ニ此條文ニ一箇所残シテ置カウト云フコトナラバ、或ハソレモ一案ニアラウカト思フテスケレドモ、サウシタラ宜クハナイカト思フ

○齋藤隆夫君 私ハ此戸籍簿ト云フモノト戸籍ト云フモノヲ別ノ意味ニ解釋シナケレアリマスガ「市町村内」テ分リサウナモノニアリマスガ、特ニ區域ノ文字ヲ用ヒラタノハドウカ意味ガアリマセウカ
○委員長(長島鷲太郎君) 修正意見が出来居リマスカラ荒川君ノ修正意見カラ決

○委員長(長島鷲太郎君) 少數、島田君ノ修正ニ御賛成ノ方ハ舉手ヲ願ヒマス
○島田俊雄君 第十六條第二項「除籍簿ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム」トアリ
スガ「司法大臣」ト云フ四字ヲ削ヅテ「勅令ヲ以テ」ト云フコトニシタイ、是ハ隨分重大ナ
關係事項デアリマスカラ、勅令ヲ以テ定ムルガ穩當デアラウト思フ、一體ナラバ茲ニ年限ヲ
限ヅテ、百年トカ七十年トカシタインデアリマスガ、ソレニ付テハ又議論モアリマスカラ、勅
令ヲ以テ定ムト云フコトニシタイ

○政府委員(法學博士鈴木喜二郎君) 保存期間ハ總テ司法大臣ガ定ムルコトニ
ナツテ居リマスカラ、之ヲ勅令ニスルト云フコトハ少シク困難デゴザイマス
○島田俊雄君 此寄留法ニ關シテモ「勅令ヲ以テ定ム」ト云フ事柄ガアリマスカラ、勅
令ヲ以テ定ムト云フ方ガ宜カラウト思ヒマス

○政府委員(法學博士鈴木喜二郎君) 寄留法ノ「勅令ヲ以テ定ム」ト云フノハ、所
謂委任勅令ト云フコトニシタノデアリマスガ、此寄留法第三條ノ規定ノ如キハ、實質上
法律ヲ以テ規定スベキ事柄ガアリマスノデ、勅令ヲ以テ定ムト云フコトニシタノデスガ、書
類ノ保存期間ニ付テハ、一々勅令ヲ以テ定ムルト云フノハ誠ニ實施上困難デアリマス
○島田俊雄君 ソレデハ是ハ撤回シマス

○委員長(長島鷲太郎君) 此十二條ノ「新三戸籍ヲ作り」ト云フ、是ハ前ノ修正
ノ結果整理ニ屬シマスカラ、政府委員ニ一任スルコトニ致シマス、第三章第十八條ヨリ四
十二條ヲ……

○島田俊雄君 第十八條ノ第一號ノ「氏名」ノコトニ付テアリマスガ、此法律ノ
中ニハ「氏名」ト云フヤウニ熟語ノヤウニ用井タ場合ト、單ニ「名」ト云フ字ノアル場合ト
ガアルヤウデアリマスガ、嚴格ニ申シマスレバ、此十八條ノ場合ニ於テ戸主ニ付テハ氏名
ヲ書ク必要ガアリマスケレドモ、前戸主又ハ家族ニ於テハ——家族ハ其家ノ氏ヲ稱スル
ト云フコトニナツテ居リマスカラ、戸主ト同姓ナルト云フコトガ民法ノ原則デアリマス、故
ニ戸主ニ付テ既ニ氏ト名ト書キマスレバ、家族ニ付テ一々氏ト名ト又繰返シテ書ク
必要ハナイ、單ニ家族ニ付テハ名ダケヲ書ケハ宜イノデアル、是ハ嚴格ニ言ヘバ即チ「戸
主ノ氏名前戸主及家族ノ名」ト云フヤウナ風ニ書クベキデアラウト思フノニアリマスガ、此
點ニ付テハ他ノ場合ノ關係上、此條文ヲ訂正スルコト廢メテ、此以下ノ各條ノ中ニ
アル單ニ「名」ト書イテアルトコロヲ、總テ「氏」ノ字ヲ入れテ、即チ「氏名」ト云フ二字ヲ戸
籍法ニ於テハ——熟語ノヤウニシテ用ヰ、而シテ名ダケヲ必要トシテ氏ヲ必要トセザル場
合ニハ、其取扱當事者ノ扱ヒニ依ヅテ自由ニ裁量シテ書クコトノ出來ルヤウニシタガ宜カ
ラウト思フノデアリマス、ソレ故ニ私ハ此十八條第一號ニ於テハ、サウ云フ意味ニ於テ修
正案ヲ出スコトヲ廢メテ、ソレト同時ニ後ノ各條即チ私ノ見當ツトコロニ依ルト、第六
十九條ノ出生ノ場合、第百四十九條ノ外國人ニ關スル場合、第百五十二條等ニ於
ケル單ニ「名」ト書イテアルモノ、上ニ「氏」ト云フ字ヲ加ヘテ、總テ「氏名」ト云フコトニ
テ整理シタイト思フノデアリマス

○大口喜六君 私カラモ本條ニ對シテハ委員長ノ御手許マデ修正意見ヲ出シテアリマ
スガ、唯今島田君ノ御意見ヲ承ルト、全ク私共ノ出シマシタ修正案ノ意見ト趣意ヲ一
ニシテ居ルヤウニ思ヒマス、サウシテ其御説明ニ依リマスレバ、私共ノ趣意ハヤハリ貫徹ス
ル譯デアリマスカラ、全ク意見ガ同ジデアリ、趣意ハ貫徹スルノニアリマスカラ、議論ヲ一
致スルタメニ島田君ノ御説ノ如クニ致シタイト思ヒマス、左様御承知ヲ願ヒマス
○委員長(長島鷲太郎君) 他ニ修正ノ御意見ガアリマスカラ
○大口喜六君 三章ニハマダ他ニ修正ガアリマスガ、島田君ノ方が出マセネバ……
○委員長(長島鷲太郎君) 唯今ノ島田君ノハ詰リ他案ノ修正ニ對スル御希望デア
ルノデ、寧ロ修正意見トシテハ他條ニ採リタイト思ヒマス、此處ニハ大口君島田君ノ御
希望ト見テ置キマス

○島田俊雄君 第二十一條ノ第一號ノ末尾——第一號第二號第三號等ノ終ニ
「職氏名」トアル、此「職氏名」ト云フノハ單ニ「職名」テ宜カラウト思フノニアリマス、
何々村長ト云フダケテ宜カラウト思ヒマス、ソレハ四號ニ「裁判所」ト云フノガ單ニアツテ
裁判所ノ扱ヅタ被告判事ノ名ト云フモノヲ別段書ク必要ハナリ、唯裁判所ト云フ名
ケテ宜イ譯デアリマスカラ、職名ダケヲヤレバ宜カラウト思フ、小サイ問題デアリマスガ、此
處ニアル「氏」ノ字ハ前ニ申シタ「氏名」ト云フノトハ違フノニアリマスカラ、全ク是ハ職
名ダケヲ書イテ、取扱者ノ本人ノ名前ヲ書カナイト云フコトアリマス、名前ハ別ニ知ル
方法ガアルノニアリマスカラ、是ハ「氏」ノ字ヲ除キタイト思ヒマス

○政府委員(法學博士鈴木喜二郎君) 此際チヨット政府ノ意見ヲ申上ゲマスガ、此
職氏名ト致シマシタ譯ハ、例ヘベ航海日誌ヲ備ヘマシタルトコロノ船ノ船長艦長ガ、航海
日誌中ニ出生死亡等ノコトヲ記載致シマシテ、其謄本ヲ作ラテ或ハ戸籍吏或ハ領事等
ニ送付スル場合ガアリマス、サウ云フ場合ニ於テ、單ニ軍艦長或ハ何々商船船長ト云
フダケテハドウモ詳カニナラヌトコロモアリマスデ、ソコテ「何々船船長某」斯ウ云フ風ニ書
マスト、詰リ發送者ノ明確ヲ期スル上ニ於テ完全ナラザルモノト思ヒマシテ、是非是ハ職
名氏名相並シテ記載スルコトノ必要カラ致シマシテ、此處ニ斯様ニ記載シタル次第デゴ
ザイマスカラ、其點ヲ一應申シテ置キマス

○島田俊雄君 政府委員ヘチヨット御聽キ致シマスガ、此處ニ職氏名ヲ書イテナクテモ、
居書ノ書式ニ依ツテ相當知ルベキモノハ掲グラレルノニアリマス、此處ニハ戸籍ニ記載ス
ルモノヲ書クノニアリマスカラ、職氏名ト云フモノハ——氏名ハ要ルマイト思ヒマス、此二
十一條ノ戸籍ニ記載スル事柄デアリマス、戸籍ノ方ハ氏名ヲ書ク必要ガナカラウト思
ヒマス、若シサウ云フコトヲ知ル必要ガアルト云フナラバ、居書ノ方ニ書カセルコトハ宜イ
カモ知レマセヌガ、戸籍簿ヘ持シテ行シテ此發送者請求者ノ氏名等ヲ職名以外ニ名前ヲ
記スルコトハ煩雜ニナリハシナイカト思ヒマス

○政府委員(法學博士鈴木喜二郎君) ソレモ一說デハゴザイマセウケレドモガ、本法
ノ立方ニ依リマスレバ、居書ニモ尙ホヤハリ職氏名ヲ書カセルコトニナツテ居リマス、而シ
テ居書ニ基イテ記載スルコトニナツテ居リマスカラ、此處ヲ削ヅテ居書ダケニサセルモ如何
デアラウト云フ考デアリマス

○島田俊雄君 居書ハ司法大臣ナリ勅令ヲ以テ定メタ保存期間ガアリマスカラ、居書

ニ書イテ居ルモノフ全部戸籍へ載セルコトヲシナイコトハ明カデアリマス、故ニ必要ノナイ
文字ヲ戸籍ニヤツテハ間違が生ズルト思ヒマス、故ニ是ハ職名ダケテ宜カラウト思ヒマス
○司法省參事官(山内確二郎君)此届書ニ報告者ノ氏名ヲ書キ請求者ノ氏名ヲ
書ク、或ハ公報發送者ノ氏名ヲ書クト云フコトハ少シモナイ、二十一條ノ戸籍ニ記載
スルタメニ事項ヲ明カナラシムルタメニハ戸籍ニ書クト云フコトガアリマスケレドモ、報告ノ
形式ナリ、或ハ請求ノ形式ト云フモノハ、届書ノヤウニ正確ニ出来テ居ナイ、別段規則
ヲ定メテナイノテ、二十一條カラ來ルコトニナリマス、ソレデ、二十一條ノ氏ヲ削ラレルト、
報告書ノ形式、ソレカラ請求ノ形式等ヲ細カイ規定ヲシナケレバナラヌコトニナルダラウト
思ヒマス

○島田俊雄君

サウスルトサウ云フ細カイ規定ナシニ此條文ヲヤル御考デアリマスカ
○司法省參事官(山内確二郎君)二十一條ニ規定ニナクテ請求ヲスルノハ檢事デア
リマス、報告スルノハ官廳デアリマス、報告ニ記載事項ハ届書ニ關スル規定ニ依ッテ、届
書ニ關スル事項ヲ記載シテ報告セヨト云フコトニナツテ居リマス

○島田俊雄君

報告請求等ヲスル場合ニ於テノ職名ダケテナシニ、其職氏名ヲ書クト
云フコトハ、是ハ特ニ訓令等ヲ出サヌテモ通常ノ我國ノ官廳ノヤリ方デ出來ルト思ヒマ
ス、其場合ニ於テハ規定ガナクテモ常識デ出來マス、若シ常識デ判断スルコトが出來ナ
ケレバ、ソレハ施行法ナリ、施行細則ニツノ規定ヲ設ケラレタナラバ事が足ルノテアリマ
ス、其報告書ノ中ニ職氏名ヲ掲ゲルト云フコトハ、狹イ戸籍ノ面ニ斯ウ云フ殆ド無用ト
モ思フベキヤウナコトハ掲ゲルト云フコトハ必要ガナカラウト思ヒマス、是ハ今ノヤウニ御異
存ガアリマスレバ、此「職氏名」ト云フ「氏」ノ字ヲ除クコトハ強イ意味ヲ以テ私ハ主張シ
タイト思ヒマス、必要ガナイト思ヒマスカラ、他ニ御議論ガナケレバ決シヲ採シテ戴キタイ

○委員長(長島鷺太郎君) 島田君ノ修正意見ニ御賛成ノ方ノ舉手ヲ願ヒマス
舉手者 少數

○委員長(長島鷺太郎君) 少數、ソレカラ二十七條ノ第二項ニ付ア大口君カラ修

正意見が出テ居リマス

○大口喜六君 是モヤハリサウ必要ガナイカモ存シマセヌガ、此處ニ此法文ヲ一層確カ

メマス爲ニハ此但書ヲ加ヘテ戴キタイト思ヒマス、即チ此二十七條ト三十五條ノ關係デ
アリマスガ、二十七條ノ方ハ除籍ヲ致シマス方ノ市町村ノ取扱ヲ規定シタモノニアリマシ
テ、三十五條ノ方ハ入籍ラスル方ノ市町村長ノ取扱ヲ規定シタモノニアリマスガ、三十
五條ノ方ニハ但書ガアリマシテ、但入籍地ノ市町村長が届出ヲ受理シタルトキハ此限ニ
在ラス」トナツテ居リマスカラ、入籍地ノ市町村長ハ是ハ届書ヲ受ケマスト、入籍ノ通知
ノ手續ヲ省キマシテ、單ニ届出ダケテ宜イコトニナツテ居ル、然ルニ二十七條ノ方ノ除籍

地ノ市町村長ハ、是非共入籍ノ通知ガナクテハ除籍ヲスルコトが出來ナイト云フ意味ニ

第二項デナツテ居リマスガ、是ハ推理上推及的ニ參リマスレバ、此但書ハ二十七條ニ要

ラヌヤウデアリマスケレドモ、頗ル惑フ生スルノデアリマスカラ、但書ヲ加ヘタ方が適當デア

ルト思ヒマスノデ、此二十七條ニモヤハリ第二項ノ終リニ「但入籍地ノ市町村長が届出
ヲ受理シタルトキハ此限ニ在ラス」斯ウ云フ文字ヲ加ヘマスノヲ相當ト認メルノデアリマス

○島田俊雄君 是ハ大口君ノ御主張ニナル通りノ理由ガアルト思ヒマスカラ、此處ニ
三十五條ト同様ニ此但書ヲ入レルコトニ賛成致シマス

○委員長(長島鷺太郎君) 大口君ノ修正意見ニ御賛成ノ方ハ舉手ヲ願ヒマス
舉手者 多數

○委員長(長島鷺太郎君) 多數デアリマス

○島田俊雄君 第二十六條ニ御相談ガアリマスカラ、チヨット筆記ヲ…

○委員長(長島鷺太郎君) チヨット筆記ヲ止メテ貰ヒタイ

(速記中止)

○島田俊雄君 後ニ修正ノ箇所ハ無イト思ヒマシタカラ、次ノ方ニ移ツテ戴キタイ

○委員長(長島鷺太郎君) ソレデハ第四章、届出、第四十三條ヨリ――第一

ト、市町村長が罰則ニ候ル譯ニナルノデアリマス、市町村長が事實ヲ知ル時ハ、復籍
拒絶ニ關スル事項ヲ取消シナケレバナラヌガ、其事實ヲ知ラナイ場合ハ已ムヲ得ナイト云
フ意味ヲ此處ニ明ニシテ置キマセヌトイカヌト思ヒマスカラ、是非サウ云フ風ニ修正ヲシタ
イト云フ意見デアリマス

○島田俊雄君 是ハ御説明ガアリマシタケレドモ、其字ガアルノトナイノト同ジ意味ニ

解釋が出來ルト思ヒマスカラ、原案通リテ宜カラウト思ヒマス

○政府委員(法學博士鈴木喜二郎君) 結果ニ於キマシテハ御修正ノ文章ト此案ノ

趣意トハ同一ト思フノデゴザイマス、今御話ノアツヤウナ事實ノ場合ニ於キマシテハ、戸
籍吏ニ怠リアリトシテ直ニ處罰スル意味デハナイノデアリマス、例ヘバ此事實ヲ生ジマシテ
モ戸籍吏ガ之ヲ知リマセヌケレバ、決シテ戸籍吏ニ怠アリタリトシテ處罰スル精神デハアリ

マセヌ、ソレダケヨツト申上ゲテ置ギマス

○委員長(長島鷺太郎君) ソレデハ大口君ノ修正意見ニ御賛成ノ方ハ舉手ヲ願ヒ
マス

節……

(速記中止)

○島田俊雄君 第四十七條ノ第四號ハ、質問ノ當時ニ於テモ屢々縁返シタ如ク、職業ノコトヲ届出書ニ書カセルコトハ、戸籍ト云フコトニハ何等ノ關係ガナイト言テモ宜シイ位デアツテ、之ヲ統計ノ材料トスル場合ニモ、斯ノ如ク一年ヲ通シテ出テ來ルトコロノ届書ニ書イテアル職業ト云フモノハ、統計材料トシテモ價値ガナイ、唯ダ動態調ヘノ場合即チ出生、死亡、婚姻、離婚、縁組、離縁等ノ場合ニ結ビ付ケテ見タイト云フ慾望ニ過ギナイン静態的ニ調ヘテ始メテ値打ガアルモノデアルカラ價値ガナイ、何トナレバ職業ハアルカラ、全體ナラバ私ハ全部之ヲ削除シテ宜シト思ヒマスガ、併ナカラ今ノヤウナ統計上特殊ノ關係モアルト云フコトデアリマスシ、又是ニ依ラナケレバ他ニ調ベル方法モナイト云フコトデアルカラシテ、必要ノ程度ニ之ヲ止メル意味ヲ以テ、職業ヲ鮮明ニスル必要ナル場合、即チ出生ノ場合、死亡ノ場合、婚姻ノ場合、離婚ノ場合、縁組ノ場合及離縁ノ場合ニソレヽ職業ヲ必要ノ時ニハ届書ニ書クト云フコト——各場所ニ於テ、職業ヲ記載スルコトニシテ、其整理ハ政府ノ方ニ御依頼ヲシテ、尙第四十七條ノ第四號全部ヲ削除シタイト思ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) 島田君ノ御意見ニ賛成ト呼フ者アリ

○委員長(長島鷲太郎君) 島田君ノ御意見ニ賛成ノ方ノ舉手ヲ願ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) 多數

○委員長(長島鷲太郎君) 多數デアリマス

○島田俊雄君 第六十七條第二項ニ付テハ議論ガアルトコロデアリマスカラ、齋藤君ノ御提案ニナルベキ第四條ノ規定ト同シヤウニ後廻ハシニスルト云フコトニ致シマシテ、第二節ノ方ニ移シテ御討論ヲ願ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) フレデハ本條ニ付テ大口君ノ修正意見モアリマスカラ、ソレモヤハリ唯今ノ趣意ニ於テ後トヘ廻シマス

○島田俊雄君 本節ニ於テ第六十九條第一項等ニ「名」トアリマス彼所ヘ「氏」ヲ入レルト云フコトハ、先程ノ決議ニ依シテ當然ノコトデアラウト思ヒマスカラ、即チ此處デハ「名」ト云フコトシカ要ラヌケレドモ、此法律ニ於テハ「氏名」ト云フノヲ續イタツノ熟語ニスルト云フ意味ヲ以テ此「名」ト云フ所ヲ「氏名」ト云フコトニ修正ヲシテ戴キタイ、以下總テ此「名」ト云フ字ノ所ハ二箇所アルト思ヒマスカラ、其通りニシテ戴キタイ

○委員長(長島鷲太郎君) 島田君ノ修正意見ニ御賛成ノ方ノ舉手ヲ願ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) 多數
○島田俊雄君 第七十八條第二項ノ中ニ「出生ノ推定年月」トアリマスガ、此ノ「月」ノ下ニ「日」ト云フ字ヲ入レテ「推定ノ年月日」トシテ、日迄推定セシムルヤウニシタイト思ヒマス、是ハ推定デアリマスカラ、勿論正確ニイカヌデアラウト思ヒマスケレドモ、他ノ法規ノ關係上「日」ト云フ字ヲ入レテ置カナケレバナラヌ、手近イ例ニ付テ言フト、學齡兒童ニ於テ就學ノ關係ヲ定ムル場合ニ、出生ノ年月日ト云フモノが要ルノデアリマスカラ、其爲ニ此處テ月ダケニシテ日ノ推定ヲ省イテ置クト、非常ナ不便ガ起リマスシ、外ノ

場合ニ例外ヲ設ケル尙ホ更煩雜デアリマスカラ「日」ト云フ字ヲ入レタイ

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 七十八條二項ノ「推定ノ年月」ノ下ニ「日」ヲ入レルト云フコトデアリマスガ、此點ニ付テハ別段異存ハコサイマセヌ

○委員長(長島鷲太郎君) 島田君ノ修正意見ニ御賛成ノ方ノ舉手ヲ願ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) 多數

○委員長(長島鷲太郎君) 舉手者

○島田俊雄君 二節ニハ別ニ修正意見ハゴザイマセヌ、唯此八十一條ノ届出ニ於テ、職業ヲ記載スルコトニシテ、其整理ハ政府ノ方ニ御依頼ヲシテ、尙第四十七條ノ第四節ノ場合ニ此職業ヲ適當ノ場所ヘ入レテ戴キタイ

○委員長(長島鷲太郎君) フレデハ第五節

○島田俊雄君 此處ニハ今ノ職業ノ場合ノ外ニ、第九十五條ニ於テ即チ第一項ノ條ノ場合ニ此職業ヲ適當ノ場所ヘ入レタイト思ヒマス、之ニ對スル政府ノ御意見ハ如何デアリマセウカ

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 離婚ノ届出ニ付キマシテハ、最早戸籍ニ載ツテ居リマスカラ、出生ノ年月日ハ必要ハアルマイト思ヒマス

○島田俊雄君 但シ未成年十五歳未滿ノヤウナモノヲ離縁スルト云フヤウナ場合ニ於テ、サウ云フ必要ガアリハシマセヌカ——絕對ニアリマセヌカ

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 戸籍ニ載シテ居ツテ離縁スルノデアリマスカラ、若シ自分ガ離縁が出來ヌ場合ハ、代ツテ爲ス者ガアッテ分ルノデアリマスカラ……

○委員長(長島鷲太郎君) 第六節

○島田俊雄君 此節ニモ意見ハアリマセヌ、唯職業ハ前例ニ依シテ適當ノ場所ヘ加ヘテ戴キタイ

○委員長(長島鷲太郎君) 第七節

○島田俊雄君 第七節モ同様デアリマス

○委員長(長島鷲太郎君) 第百四條ニ職業ヲ入レル——第八節

○島田俊雄君 ナシ

○委員長(長島鷲太郎君) 第九節

○島田俊雄君 ナシ

○委員長(長島鷲太郎君) 第十節

○島田俊雄君 第百十六條ニ於テ死亡ノ届出ノ期間デアリマスガ、五日間トナツテ居思ヒマス、是ハ推定デアリマスカラ、勿論正確ニイカヌデアラウト思ヒマスケレドモ、他ノ法規ノ關係上「日」ト云フ字ヲ入レテ置カナケレバナラヌ、手近イ例ニ付テ言フト、學齡兒童ニ於テ就學ノ關係ヲ定ムル場合ニ、出生ノ年月日ト云フモノが要ルノデアリマスカラ、其爲ニ此處テ月ダケニシテ日ノ推定ヲ省イテ置クト、七日ト修正致シタイト思テアリマスカラ、ソレニ釣合フト云フ意味デアリマセヌガ、死亡ノ場合ニハ隨分出生トハ又違シタ意味ニ於テ混雜シテ居ル場合モアラウト思ヒマス、既ニ一方テ延バスト云フナラバ、此五日ヲ七日間位ニ延ハシタ方が宜イト思ヒマスカラ、七日ト修正致シタイト思

ヒマス

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君） 是ハ現行法モ五日デアリマスガ、出生ノ場合トハ違ヒマシテ、愁傷ディロ／＼混雜モシテ居リマセウケレドモ、事實ニ於テ葬ヒヲスルト云フコトヲ眼ノ前ニ控ヘテ居ル、葬ヒヲスルニハ死亡居ラシナケレバ、警察トノ關係ニ於テ葬ヒが出來ナイコトニナッテ居リマスカラ、ドウモ事實ニ於テ五日位ガ適當ト思フノデアリマス

○島田俊雄君

唯今政府委員ノ御話モザイマスケレドモ、早クスルニハソレハ七日以内トシテ置テモ瞬間デ出來ル譯ニアリマスカラ、ヤハリ出來ナイ場合ヲ想像シテ五日ト云フ規定が出來テ居リマスカラ、七日位ニシテモ十日位ニシテモ宜イト思ヒマスガ、七日ト云フコトニ修正シタイト思ヒマス

○委員長（長島鷲太郎君） ソレデハ島田君ノ修正説ニ贊成ノ方ノ舉手ヲ願ヒマス

○委員長（長島鷲太郎君） 「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル

○委員長（長島鷲太郎君） ソレデハサウ云フコトニ致シマス

○島田俊雄君 ヤハリ百十六條ニ付テノ規定ニアリマスガ、死亡者ノ氏名本籍シカ居出ルニ及バヌコトニナッテ居リマスガ、是ハ家主が同一ノ者デ、同番地ニ於テ同名ノ同姓ノ者が死シダト云フヤウナ場合が往々起ルコトガアルト云フコトデスカラ、此所ニ出生ノ年月日ヲ届出デシムルヤウニシタ方が宜カラウト思ヒマス、政府ノ御同意ガアルナラバ、之ヲ「氏名本籍及出生ノ年月日」ト云フコトニ改メタイト思ヒマスガ、何カ特別ノ御反対ガアリマスカ

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君） 是ハ先程モ申シマス通り、生年月日ヲ入レル必要ハナイト云フ考アリマス

○委員長（長島鷲太郎君） 十二節

○島田俊雄君 十一節ニハアリマセヌ

○委員長（長島鷲太郎君） 十二節

○委員長（長島鷲太郎君） 十三節

○島田俊雄君 「アリマセヌ」ト呼フ者アリ

○委員長（長島鷲太郎君） 十四節

○島田俊雄君 是モ先程ノ通リテ、アリマセヌ

○委員長（長島鷲太郎君） 十五節

○島田俊雄君 此所ニモ無イノデスケレドモ、前ノ節ニ於テ言ヒ落シマシタカラ申上ゲテ置キマスガ、此所ニ實父母ヲ記載スルト云フコトガアリマスガ、此事ハ先程御説明ニナリマシタ政府委員ノ最モ得意ノ第五十四條ニ依テ重要ナル事項アルカラ、書カセルト云フ意味ニ於テ書カセルコトニナルト信シマス、即チ一家成立ノ場合、ソレカラ廢家絶家ノ場合ニ於テ、其一家ヲ成立スル者實父母ノ氏名、ソレカラ其者ト實父母トノ續柄ト云フ事柄ヲ書クト云フコトハ、是ハ五十四條ノ規定ニ依テ云フコトニ承知シテ宜シウゴザイマス

○大口喜六君 今島田君カラ御話デンタガ、此實父母ト云フ言葉ハ正父母ヲ指スモノト解釋シテ宜シウゴザイマス

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君） 其通りアリマス

○委員長（長島鷲太郎君） 第十六節——第十七節
〔「ナシ」ト呼フ者アリ〕

○委員長（長島鷲太郎君） 第十八節
〔「アリマセヌ」ト呼フ者アリ〕

○島田俊雄君 第十九節ノ百五十八條ノ文字ノ使ヒ方ニ付テ少シク政府ノ方ニ御相談シテ見タイト思ヒマス、茲ニ「原籍及ヒ新本籍トゴザイマスルガ」轉籍セント欲スルトキハト云フ文字が使シテアルト云フト、マダ轉籍ヲシテ居ラヌ、轉籍セント欲スル者ニハマダ原籍ハ無イ管アル、原籍ト云フ言葉ハ外ニモゴザイマスケレドモ、外ニ書イテアル原籍ト云フ言葉ハ違フ意味ニナシテ居ル、ソレカラ新本籍ト云フ言葉モ奇妙ナ言葉デアツテ、マダ取得セザル定マラザル新本籍ト云フコトニナッテ、意味ハ大體分シテ居リマスケレドモ、ドウモ文字が面白クナイ、殊ニ原籍ト云フ文字ハ明ニ違フノデアリマスカラ、此法文ニ書イテアル通りニ依リマスト、原籍が實ハ本籍デ、今持シテ居ル本籍ト是カラ變ヘヤウト云フ本籍ト兼不タ意味ニアラウト思フカ、ドウモ其ヤウナ意味デハ「原籍」デハ合ヒ惡イト思ヒマスルノデ、御相談申上ゲテ、適當ナル文字がアレバソレニ改メテ戴キタイ、若シ差常リ御見出シニナルコトが出來ヌト云フコトデアレバ、アノ原籍ト云フニ一字ヲ改メテ現在ノ「現本籍」トシタイ、即チ「轉籍セント欲スルトキハ現本籍及ヒ新本籍ヲ居書ニ記載シ」云タト云フコトニシタイト思ヒマス

○政府委員（法學博士鈴木喜三郎君） 是ハ此原籍ト云フ「原」ト云フ字ヲ書キマシタノハ現行法ノ文字ヲ襲踏シタノデ、成程潔癖議論ヲ以テ論ジマスレバ未ダ離レナインデアリマスガ、離レントスル時ノ原籍ト云フ文字論トシテ現行法ヲ襲踏シタノデアリマス、或ハ現在籍ノ「現」ノ字ノ方が適當アリマセウケレドモ……

〔速記中止〕

○島田俊雄君 唯今御協議ノ結果ニ依リマシテ、此百五十八條第一項ノ中カラ「原籍及ヒ」ト云フ四字ヲ削除シタイ

○委員長（長島鷲太郎君） 島田君ノ修正意見ニ御賛成ノ方ノ舉手ヲ願ヒマス
〔第五章ナシ」ト呼フ者アリ〕

○委員長（長島鷲太郎君） 多數、第五章

○委員長（長島鷲太郎君） 島田君ノ修正意見ニ御賛成ノ方ノ舉手ヲ願ヒマス
〔第六章ナシ」ト呼フ者アリ〕

○委員長（長島鷲太郎君） 第七章、大口君ノ修正意見ガアリマス
〔第六章ナシ」ト呼フ者アリ〕

○大口喜六君 是ハ前ノニ關聯シテ六十七條が議了シナイト、百七十八條ノ私ノ修

○島田俊雄君 ソレデハ前ノト關聯シナイ分ニ付テ修正意見ヲ提出致シマス、百七十
八條第三號ノ「正當ノ理由ナクシテ戸籍簿除籍簿」トアリマス、其下「除カレタル戸
籍」ト云フ文字ヲ入レタイ、是ハ先達政府委員ノ御説明デハ、ソレモ入ルト云フ御説明モ
ゴザイマシタケレドモ、前ニ文例ガアル、文例ガアル故ニ此處ヘモヤハリ加ヘタイト思フ、第
十七條ニ「第十二條乃至第十五條ノ規定ハ除籍簿及ヒ除カレタル戸籍」ト云フ文字
ガ使シアルノデ、此處ニモヤハリ其文例ニ依シテ「戸籍簿除籍簿除カレタル戸籍又ハ第
三十六條」云々ト云フ風ニシテ、アレダケノ文字ヲ加ヘタト思フノアリマス

○大口喜六君 其點ハ私カラモ修正ガ出シテアリマスガ、島田君ノ御説ノ通リデアリ
マス、併シ同ジ箇條ノ同ジ項ノ中ニ他ニ修正ガアリマシテ、ソレハ前ノ六十七條ト關聯
スルカラ差控ヘタノデスガ、唯今ニ同意デアリマス

○委員長(長島鷲太郎君) ソレデハ大口君ノ修正意見モアリマスガ——ソレデハ島
田君ノ修正意見モ大口君ノ修正意見モ其點ニ付テハ御撤回ニナリマス、ソレデハ其他
ノ本條ニ付テノ大口君ノ修正意見ハ留保シテ置キマス

○島田俊雄君 此機會、其議論ノアル點ヲ更ニ後廻シニシテ、此寄留法ニ就テノ討
議ヲ進メラレタカラ如何デアラウカト思ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) 如何デスカ
(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○委員長(長島鷲太郎君) ソレデハ寄留法ヲ先ニ致シマセウ

○島田俊雄君 是ハ四箇條ト附則ヲ加ヘテ五箇條デアリマスカラシテ、一括シテ修正
ヲ出スコトヲ許シテ戴キタイ

○委員長(長島鷲太郎君) 宜シウゴザイマス

○島田俊雄君 寄留法ニ付テハ先般質問ノ時ニ種々御詫モゴザイマシタガ、段々承
マス所ガ、政府ノ方ニ於キマシテモ、種々マダ御研究中ニ屬スルモノモアルト云フ事デアリ
マシタシ、委員ノ方ノ側ニ於キマシテモ質問等が非常ニ多クゴザイマシテ、其結果ツマリ此
寄留法ト云フモノハ、ドウモ不完全ナ點ガ何レカニアアルヤウニ考ベラル、ト云フコトデ、協議ヲ
シテ之ニ付テノ修正ノ案ヲ拝ヘヤウト云フコトニナシテ居ツタノデゴザイマス、其協議會ノ
結果ト致シマシテ、政府委員ノ御方ニモ御意見ヲ御聽シテ、サウシテ其等ノ疑問ヲ解決
スルヤウニシタイト云フ趣意ヲ以テ段々意見ヲ聽キマシタ結果、茲ニ此寄留法ニ於テ疑問
トナツテ居ル點、則チ其一つハ第一條ノ初ノ方ニアリマスル「居住」ト云フ文字ニ付テノ疑
問、ソレカラ尙其條デゴザイマスガ、此條ニ於テ所謂寄留ヲシタ場合ニ於ケル居出ノコ
トハ書イテゴザイマスケレドモ、此寄留場所カラ退去シタ場合ニ付テノ規定ガ茲ニ缺ケテ
居ツタ、其規定ハ第二條ノ司法大臣ノ定ムル所ニ依シテ之ヲヤラセルト云フヤウナ御説明
デアリマシテ、此點ニ付テモ委員諸君ノ間ニ御不満足デアッタ記憶シテ居リマスガ、サウ
云フヤウナ點ニ付テノ修正、ソレカラ今一ツハ寄留ニ關スル届出ノ期間ト云フモノニ付テ
何等ノ規定ガ此ニ定メテナイ、故ニ之ニ付テモ更ニ此問題ヲ解決スル必要ガアル以上ノ
諸點ニ付テ攻究ヲ致シマシタ結果、此第一條ヲ斯ウ云フ風ニ改メタイト思フノアリマス、
即チ九十日以上本籍外ニ於テ一定ノ場所ニ「居住」トアリマスノヲ、住所又ハ居所ヲ有
ト改メマシテ、即チ「九十日以上本籍外ニ於テ一定ノ場所ニ住所又ハ居所ヲ有スル者

ハ之ヲ寄留者トシトアルノヲ「シ」ヲ「ス」ト改メテ「寄留者トス」ト云フコトニシテ、サウシテ
原案ニアリマスル「届出ニ因リ、又ハ職權ヲ以テ寄留簿ニ記載スルコトヲ要ス」ト云フノヲ
除イテ其以下ニ接續スルノデアリマス、即チ「本籍ナキ者本籍分明ナラサル者及日本ノ
國籍ヲ有セサル者ニシテ九十日以上一定ノ場所ニ居住スルモノ亦同シ」是ダケヲ一項ニ
シテ、サウシテ此疑問トナツテ居リマシタ届出ノ場合、寄留シタ場合ニ届出ル、退去シタ場
合ニ云々ト云フヤウナ疑問ヲ含メテ、新ニ一項ヲ置イテ、ソレニ「寄留ニ關スル事項ハ、届
出ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ寄留簿ニ記載スルコトヲ要ス」ト云フコトニ改メタイ、即チ
此修正案ヲズット讀ンデ見マスト、第一條ノ第一項ハ「九十日以上本籍外ニ於テ一定ノ
場所ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ハ之ヲ寄留者トス本籍ナキ者本籍分明ナラサル者及
日本ノ國籍ヲ有セサル者ニシテ九十日以上一定ノ場所ニ居住スルモノ亦同シ」第二項
ハ「寄留ニ關スル事項ハ届出ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ寄留簿ニ記載スルコトヲ要ス」
斯ウ云フ風ニヤッテ、二重寄留三ナルトカナラヌトカ云フ疑問ト、サウシテ寄留ニ關スル事項ハ「云々ト
云フコトニシ、ソレト同時ニ「司法大臣之ヲ定ム」ト云フコトヲ、是ハ重要ナル事柄デアル故
ニ、敕令ヲ以テ定ムルコト、シテ「勅令ヲ以テ之ヲ定ム」トシタ方ガ宜カラウト思フ、隨分是
ハ重要ナル委任立法デアリマスカラ、サウ云フ風ニシタイ、即チ第三條ヲ「寄留ニ關スル届
出、届出義務者、届出期間、寄留簿其ノ他寄留ニ關スル事項ハ、勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト
斯ウ云フ風ニ改メタイ、此外ニモアルカモ知レマセヌケレドモ、大體今ノヤウニ致シマスレバ
先般來質問應答ヲ致シマシタ疑問ガ解決サレテ居リハセヌカト思フノアリマス
○委員長(長島鷲太郎君) 島田君ノ今ノ「届出期間」ソレカラ「ボツ」ガアルノデスカ
云フコトニシ、ソレト同時ニ「司法大臣之ヲ定ム」ト云フコトヲ、是ハ重要ナル事柄デアル故
ニ、敕令ヲ以テ定ムルコト、シテ「勅令ヲ以テ之ヲ定ム」トシタ方ガ宜カラウト思フ、隨分是
ハ重要ナル委任立法デアリマスカラ、サウ云フ風ニシタイ、即チ第三條ヲ「寄留ニ關スル届
出、届出義務者、届出期間、寄留簿其ノ他寄留ニ關スル事項ハ、勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト
斯ウ云フ風ニ改メタイ、此外ニモアルカモ知レマセヌケレドモ、大體今ノヤウニ致シマスレバ
先般來質問應答ヲ致シマシタ疑問ガ解決サレテ居リハセヌカト思フノアリマス
○島田俊雄君 アリマス
(速記中止)

○荒川五郎君 私ハ唯今ノ修正ハ大體宜イト思フノデアリマスガ、寄留スルト云フ即チ
一定ノ住所ヲ有スルノハ、九十日——九十日以外ニ區別スル必要ハナシ、苟モ住所ヲ
有スル者ハ其所ニ永久居ルト見ルノデアリマスカラ、其必要ハナシ、且又市町村ニ於テモ
別ニ此住所以外ニ滯在ヲ認ムルコトモアリマスシ、ソレカラ此度政府カラ發案ニナツタ府
縣制改正案ニモ住所ト別ニ滞在ト云フモノヲ認メテアルノデ、是等トノ權衡モ取リ、且
又二十條ニ寄留ヲ認ムルト云フヤウナコトハイカナイト思ヒマスカラ、此問題ハ尙續シテサ
ウシテ決スベキモノト思ヒマス、故ニ今日之ヲ決スルコトヲ延期シテ、更ニ會議ヲ開カレン
コトヲ希望シマス

○島田俊雄君 荒川君ノ說ハ大ニ尤デアリマシテ、私共モソレニ同情シテ居ルノアリ
マス、同情シテ居ルノデハナリ、私共モサウ御願シタイト考ヘテ居リマスケレドモ、既ニ政府
ガ原案トシテ茲ニ提出ニナツテ居ルノト、ソレカラ又是ハ御承知ノ如ク此戸籍法ニ於テ住
所ヲ本籍トスルト云フ主義ト遠カラズシテ、本籍ヲ自由ニ定メルコトが出来ルト云フコト
ノ主義ヲ採用致シマシタ爲ニ生ズル結果デアッテ、即チ二十條ノ寄留ノ出來ル已ムヲ得
ナイ結果カラ出來タ、サウ云フコトカラ來ルモノデアリマシテ、寄留法モ尙御説ノ如ク大ニ

研究ヲ要スルコトデゴザイマシテ、他ノ法律上ノ關係ト圓滑ナラズ點が生ズルノデアル、併ナガラ此點ハ此後如何ナル規定カ如何ナル法律カ或ハ勅令カデ改正ヲサレルヤウニ廣クナツテ居リマスカラシテ、ソレ等ノ勅令ノ規定ヲ圓滑ヲ計ルコトモ出來ヤウト思フノデアリマスカラ、ヤハリ此所デ私ハ此法律ヲ成立シテ、宜クナイ所ハ修正等モ加ヘナケレバナラヌ所ハ修正ヲ加ヘテヤリタイト、斯ウ云フ希望ヲ持ツテ居リマス、サウシテニニ對シテ實施經驗ノ上ニ於テ若シ不都合ナコトガアリマシタキハ、其不都合ナコトハ他日之ヲ實施ノ經驗上改メルコトが出來ル、尙又現在ノ寄留ノ制度ト云フモノハ明治初年以來アルノデアッテ、寄留ノ手續ニ關シテハ、法律或ハ規則ガ不統一ノモノニナツテ、區々ニナツテ居リマスカラ、此戸籍法ノ制定サル、ニ當ツテ、ソレニ關聯シタ寄留ノ法規が定マルト云フ、其點カラモ宜カラウト思フ故ニ、吾ミガ研究ヲスル上カラノ希望ハ姑ク指キマシテ、此所ニハ此法律ヲ土臺トシテ、此案ヲ土臺トシテ適當修正ヲ加ヘテ、之ヲ成立タセタイト思フノデアリマス

○委員長(長島鷲太郎君) 御意見ガナケレバ採決致シマス、荒川五郎君ノ動議ニ贊成ノ方ハ舉手ヲ願ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) 少數、然ラバ島田君ノ修正意見ニ御贊成ノ方ハ舉手ヲ願ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) 多數、然ラバ島田君ノ修正意見ニ御贊成ノ方ハ舉手ヲ願ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) 多數アリマス、ソレデハ是デ終リマシテゴザイマスガ、留保サレテ居ル二箇條ガアリマス、明治三十八年法律第六十一號中改正法律案

○島田俊雄君 是ハ戸籍法ノ改正ノ結果トシテ當然ナスベキノ改正デゴザイマスカラ、別ニ異議ハアリマセヌ

○委員長(長島鷲太郎君) 御異議アリマセヌカ

○(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(長島鷲太郎君) ソレデハ之ニ決シマス、明治四十二年法律第三十九號中改正法律案

○島田俊雄君 是モ第六十二號改正ト同様デゴザイマスカラ、何等ノ異議ハアリマセヌ

○(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(長島鷲太郎君) 是モ可決致シマス、ソレデハ留保ニナツテ居リマス所ノ二ツノ條文ニ就テ、先ツ齊藤君ノ第四條ニ對スル所ノ意見ヲ伺ヒマス

○齊藤謹夫君 私ハ第四條ノ修正ヲ提議致シマス、先ツ修正ノ條文ヲ朗讀致シマス「第四條、市町村長カ其職務ノ執行ニ付キ故意又過失ニ因リテ居出入其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ國ハ之ヲ賠償スル責ニ任ス、前項ノ場合ニ於テ國ハ市町村長ニ對シテ

リマスカラ、ヤハリ此所デ私ハ此法律ヲ成立シテ、宜クナイ所ハ修正等モ加ヘナケレバナラヌ所ハ修正ヲ加ヘテヤリタイト、斯ウ云フ希望ヲ持ツテ居リマス、サウシテニニ對シテ實施經驗ノ上ニ於テ若シ不都合ナコトガアリマシタキハ、其不都合ナコトハ他日之ヲ實施ノ經驗上改メルコトが出來ル、尙又現在ノ寄留ノ制度ト云フモノハ明治初年以來アルノデアッテ、寄留ノ手續ニ關シテハ、法律或ハ規則ガ不統一ノモノニナツテ、區々ニナツテ居リマスカラ、此戸籍法ノ制定サル、ニ當ツテ、ソレニ關聯シタ寄留ノ法規が定マルト云フ、其點カラモ宜カラウト思フ故ニ、吾ミガ研究ヲスル上カラノ希望ハ姑ク指キマシテ、此所ニハ此法律ヲ土臺トシテ、此案ヲ土臺トシテ適當修正ヲ加ヘテ、之ヲ成立タセタイト思フノデアリマス

○委員長(長島鷲太郎君) 御意見ガナケレバ採決致シマス、荒川五郎君ノ動議ニ贊成ノ方ハ舉手ヲ願ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) 少數、然ラバ島田君ノ修正意見ニ御贊成ノ方ハ舉手ヲ願ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) 多數、然ラバ島田君ノ修正意見ニ御贊成ノ方ハ舉手ヲ願ヒマス

○委員長(長島鷲太郎君) 多數アリマス、ソレデハ是デ終リマシテゴザイマスガ、留保サレテ居ル二箇條ガアリマス、明治三十八年法律第六十一號中改正法律案

○島田俊雄君 是ハ戸籍法ノ改正ノ結果トシテ當然ナスベキノ改正デゴザイマスカラ、別ニ異議ハアリマセヌ

○委員長(長島鷲太郎君) 御異議アリマセヌカ

○(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(長島鷲太郎君) ソレデハ之ニ決シマス、明治四十二年法律第三十九號中改正法律案

○島田俊雄君 是モ第六十二號改正ト同様デゴザイマスカラ、何等ノ異議ハアリマセヌ

○(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(長島鷲太郎君) 是モ可決致シマス、ソレデハ留保ニナツテ居リマス所ノ二ツノ條文ニ就テ、先ツ齊藤君ノ第四條ニ對スル所ノ意見ヲ伺ヒマス

○齊藤謹夫君 私ハ第四條ノ修正ヲ提議致シマス、先ツ修正ノ條文ヲ朗讀致シマス「第四條、市町村長カ其職務ノ執行ニ付キ故意又過失ニ因リテ居出入其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ國ハ之ヲ賠償スル責ニ任ス、前項ノ場合ニ於テ國ハ市町村長ニ對シテ

ノ國法解釋トシテハ國家ハ全ク無責任ノ地位ニ立ツテ居リ、如何ナル場合ニ於テモ國家が責任ヲ負擔シテ居ラヌノデアリマス、唯其國家ノ機關トシテ不法行爲ヲナシタルトコロノ官吏及ヒ公吏ノ責任ニ付テハ、二三ノ規定が設ケテアルノデアリマス、例ヘ刑事訴訟法第十四條、不動產登記法第十三條、公證人法第六條及現行ノ戸籍法第六條デ

アリマス、斯ウ云フ場合ニ於テハ國家ハ責任ヲ帶ビヌケレドモ、不法行爲ヲナシタルトコロノ公吏が個人トシテ責任ヲ負フト云フコトニ規定シテ居ルノデ、之ヲ取除ケバ國家ハ勿求償權ヲ有ス」斯ウ云フ修正ヲ施シタインデアリマス、此修正ノ意義ヲ簡單ニ申シテ置キマスルガ、第一ハ損害ノ責任主體ヲ變更スルコト、第二ハ損害ノ原因ヲ擴張スルコト、此一點ニ歸スルノデアリマス、現行法ニ依ルト市町村長が其職務ノ執行ニ付テ不法行爲ヲナシテ他人ニ損害ヲ加ヘタキハ、其市町村長が個人トシテ自分ノ私有財產ヲ以

テ責任ヲ果サナケレバナラヌト云フ取扱ニナツテ居ル、之ヲバ責任ノ主體ヲ國トシテ、即チ國家ヲ責任主體ニスルト云フノガ第一デアリマス、又此責任主體ヲ市町村ナル團體トセズシテ、國家ト云フコトニナシタルニ付テハ、別ニ詳シク説明スル必要モゴザイマセヌ、此戸籍事務ハ市町村ナル團體ノ事務ニアラズシテ、國家ノ事務デアッテ、市町村長ハ町村制第七十七條及市制第九十三條ノ規定ニ依ツテ、國家ヨリ其事務ヲ委ネラレテ居ツテ、其主體が國家デアリマスカラ、其責任者モ從ツテ國家ニスルト云フコトニ擴張シテ、マス、第一ノ損害ノ原因ハ、原案ニ依ルト云フト市町村長ノ故意又ハ重大ノ過失ト云フコトニナツテ居リマスカラ、修正案ハ市町村長ノ故意又ハ過失ト云フコトニ擴張シテ、普通民法上ノ損害賠償ノ原因ト同一ノ程度ニ之ヲ修正シタノデアリマス、是ガ修正ノ要旨デゴザイマシテ、是ヨリ極ク簡単ニ此提議ノ理由ヲ述ベタイト思ヒマス、御承知ノ如ク此戸籍法ハ法典トシテハ最モ注意ヲ拂ハレザルトコロノ法典デゴザイマスガ、此法典中ノ僅カ一條ニ加ヘントスルノデゴザイマスカラシテ、其意義モ頗ル簡単ニシテ且明瞭デゴザイマス、併ナガラ問題ハ頗ル重大ナル問題デゴザイマス、即チ國家ノ賠償責任ニ關スル問題デアリマシテ、我國ニ於キマシテハ未ダ嘗テ立法例ハアリマセヌ、加之歐米諸國ノ立法例ニ於テモ區々ニシテ決シテハ居リマセヌ、此大問題ヲ今此一條ノ修正ニ依テ決定セン

トスルノデアリマスカラ、其理由ヲ述ベルコトハ頗ル面倒デアリマス、若シ詳シク述ベタナラバ、到底短キ時間ニ盡シ得ベキモノデアリマセヌカラ、極ク簡単ニ其要旨ノミヲ述ベマシテ、其餘ノコトハ諸君ノ御研究ト御判断ニ信賴スルヨリホカ途ハナイト思ヒマス、先ツ最初ニ言シテ置キタイコトハ、此國家賠償責任ニ關スル我國法上ノ解釋デアリマス、私ノ見ル所デハ此國家ノ賠償責任ニ關シテハ、我國法上ニ於テ二箇ノ方面ヨリ觀察シナケレバナラヌト思フノデアリマス、即チ第一ハ國家ノ私法的行爲ヨリ生ズル損害、第二ハ國家ノ公法的行爲ヨリ生ズル損害デアリマス、第一ハ國家ノ私法的行爲ヨリ生ズル損害、此場合ニ於テハ普通ノ民法ノ規定ヨリシテ國家ハ賠償責任ガアルト云フコトハ、今日ノ大審院ノ判決例ニ於テモ確ニ認メテ居ツテ、又理論ノ上ニ於テ争フコトノ出来ナインデアル、或ハ鐵道事故ノ爲ニ損害ヲ受ケタト云フ場合、國が損害ヲ負フト云フコトハ裁判所モ之ヲ容レテ居ルノデ、斯ウ云フ私法的行爲ヨリ第二者ニ損害ヲ及ボシタル場合ニ於テハ、國家ニ賠償責任ノアルコトハ爭フカラザルコトデアル、ソレカラ第二ノ公法的行爲ヨリ生ズル損害ニ付テハ、是ハ我國法上ニ何等ノ規定ガアリマセヌカラ、今日ノ國法解釋トシテハ國家ハ全ク無責任ノ地位ニ立ツテ居リ、如何ナル場合ニ於テモ國家が責任ヲ負擔シテ居ラヌノデアリマス、唯其國家ノ機關トシテ不法行爲ヲナシタルトコロノ官吏及ヒ公吏ノ責任ニ付テハ、二三ノ規定が設ケテアルノデアリマス、例ヘ刑事訴訟法第十四條、不動產登記法第十三條、公證人法第六條及現行ノ戸籍法第六條デ

任ノ主體トナルベキ能力ガアルヤ否ヤト云フコトが起テ來ル思フ、此點ハ今日ノ學說ノ模様ヲ見マスト、國家ハ過ヲナス能力ガアリ不法行爲ヲナス能力ガアルト云フコトニ歸着シテ居ルト觀察シテ居リマス、昔ノ專制時代ニ於テ國家萬能力ト云フコトヲ法理ノ基礎トシテ居シタ場合ニハ、國家ハ過ヲナサズ、不法行爲ヲナサズト云フトコロニ法理ノ根據ヲ置イタノデアリマスカラ、國家ノ官吏公吏が過ヲナシタルトキハ、ソレハ個人ノ行爲ニシテ國家ノ行爲デハナシ、國家ハ官吏公吏ニ不法行爲ノ命令ヲセズ、而カモ之ヲナサザルヤウ訓令シテ居ルヲ以テ、若シ不法行爲アレバ官吏公吏ノ私ノ行爲デアル、故ニ個人トシテ責任ヲ負ヒ、國家自身ガ責任ヲ負フト云フコトハ法理上認ムルコトハ出來ヌト云フノガ昔ノ思想デアリマスガ、今日此思想ハ全ク異ナシテ、國家ト雖モ過ヲナシ、又不法行爲ヲナスモノデアル、即チ國家ガ其機關ヲシテ職務ヲ行フニ當ツテナス不法行爲ハ、ヤハリ國家ノ不法行爲デアルト云フコトハ法理上示ストコロデアズテ、此點ニ付テハ何等争フ人ハナカリサウデアリマスカラ、是ニ關スル詳細ハ致シマセメ、ソレ故ニ若シ私ノ修正ニ反対ヲセラル方々ニ於テモ、此論結ニ付テハ議論ヲセラレナイ方ガ宣カラウト思フ、若シ之ヲ争フコトニナルト、私モ隨分議論ガアリマス、此論結ニハ同意ヲセラルコトヲ茲ニ希望スルノデアリマス、法理上ノ點ハソレデ止メマスガ、次ハ私ハ憲法上ノ觀察ヨリシテ、責任ノ原理ハ今日極メテケレバナラスト思フ、ナゼカト云フト憲法ノ目的トスルトコロハ人權ノ確保ニ在ルノデアリマセウ、人民ガ人民ニ對シテ損害ヲ加ヘタキハ賠償責任ハアルガ、國家ガ人民ニ對シテ加ヘタキハ其責任ハナイト云フコトハ、決シテ人權ヲ擁護スル道デナインデアリマス、併シ憲法ト云フモノハ大體ヲ極メタモノニアズテ、具體的ノ詳細ノ規定ハ別ニ定ムル法律ニ讓ルヨリ仕方ガナイ、然ルニ今日此點ニ關スル法律ハ備ハシテ居ナイカラ、憲法上人權擁護ノタメニ國家賠償ノ規定ヲ定ムル必要ガアリマス、第三ハ實際上ノ觀察デアリマスガ、法理論憲法論ヲ離レテ實際ヨリ觀察シテモ、若シ市町村長ノ不法行爲ニ付テ、市町村長が個人トシテ私有財產ヲ以テ其責任ヲ果スコトニナリマシタラバ、損害賠償ノ權利ハ決シテ鞏固ナル權利デナク、薄弱ナル權利トナルノデアリマス、ナゼカラバ市町村長ノ財產ハ有限ノモノデアルノミナラズ、有給ト雖モ無給ト雖モ市町村長ノ財產ハ高ガ知レテ居リマス、又一方ニ於テ起ルベキ損害ノ額ハ無限デアリマセヌガ、到底一定スルコトハ出來ナイノデアリマスカラ、此定マラナイ損害賠償ノ權利ヲバ僅カナル財產ヲ以テ擔保セシムルコトハ、結局有名無實ニ終ルト思ヒマスカラ、被害者ノ權利ヲ保護スル上ニ於テ、此責任ハ國家ノ責任トスルコトガ相當ニアラウト思ヒマス、ソレカラシテ別ニ各國ノ立法例抔ヲ餘リ調ヘテ居リマセヌシ、又是ニ關スル立法例ハ奧田司法大臣ガ言ハタ通リ甚ダ乏シイノデアリマスガ、茲ニ唯一ツノ立法例ヲ述ベテ置キマス、是ハ司法省ノ諸君ハ獨逸ノコトハ御承知デアリマシ、私ハ比較的獨逸ノコトハ不案内デアリマスカラ、詳シイコトハ述ベマセヌガ、唯要領ヲ述ベテ置キマスガ、獨逸民法第八百三十九條ノ規定ニ據ルト、官吏が若シ故意又ハ過失ニ因テ第三者ニ損害ヲ加ヘタ場合ハ、官吏自身が責任ヲ負フノデアズテ、國家が負ハナイコトニナシテ居ル、ケレドモ民法施行法第七十七條ニ規定ガアリマシテ、民法第八百三十九條ノ責任ハ聯邦各國ノ法律ニ依テ自由ニ變更スルコトが出來ル、即チ聯邦諸國ニ於テ國家又ハ自治體ヲ以テ責任ノ主體トスルト、官吏ヲ以テ責任ノ主體トスルモ、孰レニスルモ自由

デアルト云フ規定ガアリマス、此規定ニ據テ普魯西ヲ始メトシ「ハイエルン」「ウルテンブルグ」バーデン「如キモノハ、此施行法ノ規定ニ依テ國家ニ賠償責任ガアルト云フコトニ極メテ居ルノデアリマス、尙此國家ノ賠償責任ニ關スル說ハイロクアリマシテ、第一ハ自由選擇說デアズテ、國家ニ賠償責任ヲ負ハセント、不法ノ官吏ニ負ハセントハ、一二トシテ責任ヲ負ヒ、國家自身ガ責任ヲ負フト云フコトハ法理上認ムルコトハ出來ヌト云フノガ昔ノ思想デアリマスガ、我國ハ無責任說デアリマシテ、國人ハナカリサウデアリマスカラ、是ニ關スル詳細ハ致シマセメ、ソレ故ニ若シ私ノ修正ニ反対ヲセラル方々ニ於テモ、此論結ニ付テハ議論ヲセラレナイ方ガ宣カラウト思フ、若シ之ヲ争フコトニナルト、私モ隨分議論ガアリマス、此論結ニハ同意ヲセラルコトヲ茲ニ希望スルノデアリマス、法理上ノ點ハソレデ止メマスガ、次ハ私ハ憲法上ノ觀察ヨリシテ、人權ノ確保ニ在ルノデアリマセウ、人民ガ人民ニ對シテ損害ヲ加ヘタキハ賠償責任ハアルガ、國家ガ人民ニ對シテ加ヘタキハ其責任ハナイト云フコトハ、決シテ人權ヲ擁護スル道デナインデアリマス、併シ憲法ト云フモノハ大體ヲ極メタモノニアズテ、具體的ノ詳細ノ規定ハ別ニ定ムル法律ニ讓ルヨリ仕方ガナイ、然ルニ今日此點ニ關スル法律ハ備ハシテ居ナイカラ、憲法上人權擁護ノタメニ國家賠償ノ規定ヲ定ムル必要ガアリマス、第三ハ實際上ノ觀察デアリマスガ、法理論憲法論ヲ離レテ實際ヨリ觀察シテモ、若シ市町村長ノ不法行爲ニ付テ、市町村長が個人トシテ私有財產ヲ以テ其責任ヲ果スコトニナリマシタラバ、損害賠償ノ權利ハ決シテ鞏固ナル權利デナク、薄弱ナル權利トナルノデアリマス、ナゼカラバ市町村長ノ財產ハ有限ノモノデアルノミナラズ、有給ト雖モ無給ト雖モ市町村長ノ財產ハ高ガ知レテ居リマス、又一方ニ於テ起ルベキ損害ノ額ハ無限デアリマセヌガ、到底一定スルコトハ出來ナイノデアリマスカラ、此定マラナイ損害賠償ノ權利ヲバ僅カナル財產ヲ以テ擔保セシムルコトハ、結局有名無實ニ終ルト思ヒマスカラ、被害者ノ權利ヲ保護スル上ニ於テ、此責任ハ國家ノ責任トスルコトガ相當ニアラウト思ヒマス、ソレカラシテ別ニ各國ノ立法例抔ヲ餘リ調ヘテ居リマセヌシ、又是ニ關スル立法例ハ奥田司法大臣ガ言ハタ通リ甚ダ乏シイノデアリマスガ、茲ニ唯一ツノ立法例ヲ述ベテ置キマス、是ハ司法省ノ諸君ハ獨逸ノコトハ御承知デアリマシ、私ハ比較的獨逸ノコトハ不案内デアリマスカラ、詳シイコトハ述ベマセヌガ、唯要領ヲ述ベテ置キマスガ、獨逸民法第八百三十九條ノ規定ニ據ルト、官吏が若シ故意又ハ過失ニ因テ第三者ニ於テ國家又ハ自治體ヲ以テ責任ノ主體トスルト、官吏ヲ以テ責任ノ主體トスルモ、孰レニスルモ自由デアルト云フ規定ガアリマシテ、民法第八百三十九條ノ責任ハ聯邦各國ノ法律ニ依テ自由ニ變更スルコトが出來ル、即チ聯邦諸國ニ於テ國家又ハ自治體ヲ以テ責任ノ主體トスルト、官吏ヲ以テ責任ノ主體トスルモ、孰レニスルモ自由

デアルト云フ規定ガアリマス、此規定ニ據テ普魯西ヲ始メトシ「ハイエルン」「ウルテンブルグ」バーデン「如キモノハ、此施行法ノ規定ニ依テ國家ニ賠償責任ガアルト云フコトニ極メテ居ルノデアリマス、尙此國家ノ賠償責任ニ關スル說ハイロクアリマシテ、第一ハ自由選擇說デアズテ、國家ニ賠償責任ヲ負ハセント、不法ノ官吏ニ負ハセントハ、一二トシテ責任ヲ負ヒ、國家自身ガ責任ヲ負フト云フコトハ法理上認ムルコトハ出來ヌト云フノガ昔ノ思想デアリマスガ、我國ハ無責任說デアリマシテ、國人ハナカリサウデアリマスカラ、是ニ關スル詳細ハ致シマセメ、ソレ故ニ若シ私ノ修正ニ反対ヲセラル方々ニ於テモ、此論結ニ付テハ議論ヲセラレナイ方ガ宣カラウト思フ、若シ之ヲ争フコトニナルト、私モ隨分議論ガアリマス、此論結ニハ同意ヲセラルコトヲ茲ニ希望スルノデアリマス、法理上ノ點ハソレデ止メマスガ、次ハ私ハ憲法上ノ觀察ヨリシテ、人權ノ確保ニ在ルノデアリマセウ、人民ガ人民ニ對シテ損害ヲ加ヘタキハ賠償責任ハアルガ、國家ガ人民ニ對シテ加ヘタキハ其責任ハナイト云フコトハ、決シテ人權ヲ擁護スル道デナインデアリマス、併シ憲法ト云フモノハ大體ヲ極メタモノニアズテ、具體的ノ詳細ノ規定ハ別ニ定ムル法律ニ讓ルヨリ仕方ガナイ、然ルニ今日此點ニ關スル法律ハ備ハシテ居ナイカラ、憲法上人權擁護ノタメニ國家賠償ノ規定ヲ定ムル必要ガアリマス、第三ハ實際上ノ觀察デアリマスガ、法理論憲法論ヲ離レテ實際ヨリ觀察シテモ、若シ市町村長ノ不法行爲ニ付テ、市町村長が個人トシテ私有財產ヲ以テ其責任ヲ果スコトニナリマシタラバ、損害賠償ノ權利ハ決シテ鞏固ナル權利デナク、薄弱ナル權利トナルノデアリマス、ナゼカラバ市町村長ノ財產ハ有限ノモノデアルノミナラズ、有給ト雖モ無給ト雖モ市町村長ノ財產ハ高ガ知レテ居リマス、又一方ニ於テ起ルベキ損害ノ額ハ無限デアリマセヌガ、到底一定スルコトハ出來ナイノデアリマスカラ、此定マラナイ損害賠償ノ權利ヲバ僅カナル財產ヲ以テ擔保セシムルコトハ、結局有名無實ニ終ルト思ヒマスカラ、被害者ノ權利ヲ保護スル上ニ於テ、此責任ハ國家ノ責任トスルコトガ相當ニアラウト思ヒマス、ソレカラシテ別ニ各國ノ立法例抔ヲ餘リ調ヘテ居リマセヌシ、又是ニ關スル立法例ハ奥田司法大臣ガ言ハタ通リ甚ダ乏シイノデアリマスガ、茲ニ唯一ツノ立法例ヲ述ベテ置キマス、是ハ司法省ノ諸君ハ獨逸ノコトハ御承知デアリマシ、私ハ比較的獨逸ノコトハ不案内デアリマスカラ、詳シイコトハ述ベマセヌガ、唯要領ヲ述ベテ置キマスガ、獨逸民法第八百三十九條ノ規定ニ據ルト、官吏が若シ故意又ハ過失ニ因テ第三者ニ於テ國家又ハ自治體ヲ以テ責任ノ主體トスルト、官吏ヲ以テ責任ノ主體トスルモ、孰レニスルモ自由

然賛成デアリマス、竝ニ其提案ノ理由トシテ御示シニナリマシタコロニ付テモ、初メカラシマヒマデ大體ニ於テヤハリ御同意申上ケルノアリマス、併ナガラ此ニ私ハ尙此法律案ニ於テハ、此原案ノ儘ニシテ之ヲ置イテ置キタイト思フノアリマスルガ、即チ一面ニ於テ贊成ヲシナガラ、他ノ一面ニ於テ反對ヲスルト云フ事情ハ、齋藤君自身が反対ノ理由デアラウト思フテ想像セラレテ御述ベニナリマシタ先ツ大體其點デアリマスルガ、此國家ノ公法的ノ行爲ニ付テ生ジタル損害ニ對シテ、何人か賠償スルカト云フ問題ニ付テハ、學說及實際ハ大體ニ於テハ齋藤君ノ御述ベニナリマシタヤウナ傾向ヲ持テ居ルデアラウト思フ、私モ其點ニ付テモ御同意致シマスルガ、我國ノ現行法制ノ上カラ之ヲ見マスルト云フト、ヤハリ齋藤君ノ御述ベニナリマシタ如ク、日本ニ於テハ法制上國家ノ賠償責任ト云フモノヲ認メナイト云フコトヲ以テ我國ノ法制ハ今日マデハ一貫シテ居ル、此事ニ付テ此現行法制ノ上ニ採用サレテ居ルトヨロノ主義が宜シクナイカラ、之ヲ改メルが宜カラウト云フ事柄ハ、即チ是ガ齋藤君ガ言ハレタ法制統一上ノ問題ニナルノアツテ、此事ヲ法律ニ規定スルニ方ダツ、單リ魁ケラシテ國家賠償責任ノ學理ニ斷定ヲ與ヘルト云フコトハ、我立法政策ノ上カラ言フテ宜シクナイト思フノアリマス、サウシテ現ニ先般司法大臣が此ニ出席ノ場合ニ於テ、質問ガアリマシタ場合ニ於テ、其質問ニ對シテ近キ將來ニ於テ是等ノ問題ニ付テ十分研究ヲシタ上デ、一般的ニ國家賠償責任ニ付テノ規定ヲ定メタトイ云フ希望ヲ持チ、又其計畫ヲシテ居ルト云フコトヲ明言ガアツタノデアルカラ、此點ニ付テハ如何様ナル原案ヲ政府ハ計畫シテ出サレルカソレハ未ダ知ルコトハ出来マセヌケレドモ、遠カラズ是等ノ問題ニ解決ヲ與ヘテ、或ニ點ニ於テハ齋藤君モ満足セラレルヤウナ立法が出來ルデアラウ、實現スルデアラウト想像セラレルノアリマス、サウ云フヤウナ事情アリマス故ニ、齋藤君ノ述ベラレタ事柄ニ付テハ大體其理由等ニ付テハ多クノ反対ハゴザイマセヌケレドモ、ヤハリ陳腐デアルカハ存ジマセヌガ、他ノ法制トノ關係ト、サウシテ司法大臣ガ此ニ於テ述ベラレタ司法省内ニ於ケル司法當局トシテ御計畫ノ趣意等ヲ參酌致シマシテ、此點ニ於テ此問題ヲ解決スルト云フコトニシタイ、サウ云フ意味ヲ以テ修正案ノ理由ハ是認致シマスルケレドモ、此處ニハ第四條ハ原案ノ通リニシテ之ハ極メテ置キタイト云フ斯ウ云フ意見ヲ以テ即チ原案ヲ維持シテ置キタイト思ヒマス

○法學博士鵜澤總明君 チヨット私ハ政府委員ニ承ハッテ置キタイ、之ハ本員が討議ノ初メニドナタニカ説明ヲ承ハッタヤウテスカ、此間當時ノ兼任司法大臣現在ノ奥田大臣ノ御答ニ據リマスルト、此規定ハ民法ノ除外例ヲ設ケタ積りデアル、斯ウ云フヤウニ答ヘラレテ居ル、ソコテ其當時外ニ用事ガアリマシタカラ、民法ノ除外例ト云フコトデアレバ、第四條ノ市町村長ノ行爲ハ私法的ノ行爲デアルト云フ御見解デアルカ、或ハ公應政府ノ意見ヲ承ハッテ、政府ハドシノ行爲ニ御覽ニナツテ第四條ノ規定ヲ御設ケニタルノアルカト云フコトヲ承テ見タイノアリマス
○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 市町村長ニ戸籍事務ヲ取扱ハセマスル事柄ハ、公法的行爲デアルト思フノデゴザイマス、而シテ其職務ヲ行フニ際シマシテ、故意

又ハ重大ナル過失ニ依テ損害ヲ生ジタト云フコトハ、一種ノ不法行爲、其不法行爲ニ對シテ責任ヲ負フト云フコトニナリマス、曩キニ大臣ガ民法ノ除外例デアルト申サレタデアラウト思フテ想像セラレテ御述ベニナリマシタ先ツ大體其點デアリマスルガ、此國家ノ公法的ノ行爲ニ付テ生ジタル損害ニ對シテ、何人か賠償スルカト云フ問題ニ付テハ、學說及實際ハ大體ニ於テハ齋藤君ノ御述ベニナリマシタヤウナ傾向ヲ持テ居ルデアラウト思フ、私モ其點ニ付テモ御同意致シマスルガ、我國ノ現行法制ノ上カラ之ヲ見マスルト云フト、ヤハリ齋藤君ノ御述ベニナリマシタ如ク、日本ニ於テハ法制上國家ノ賠償責任ト云フモノヲ認メナイト云フコトヲ以テ我國ノ法制ハ今日マデハ一貫シテ居ル、此事ニ付テ此現行法制ノ上ニ採用サレテ居ルトヨロノ主義が宜シクナイカラ、之ヲ改メルが宜カラウト云フ事柄ハ、即チ是ガ齋藤君ガ言ハレタ法制統一上ノ問題ニナルノアツテ、此事ヲ法律ニ規定スルニ方ダツ、單リ魁ケラシテ國家賠償責任ノ學理ニ断定ヲ與ヘルト云フコトハ、我立法政策ノ上カラ言フテ宜シクナイト思フノアリマス、サウシテ現ニ先般司法過失ニ付テハ責任ヲ負ハシメル性質ハ不法行爲ニ對スル責任、斯ウ云フコトニナラウト思フテ、私モ其點ニ付テモ御同意致シマス、齋藤君ノ修正意見論責任ヲ負ハシメル性質ハ不法行爲ニ對スル責任、斯ウ云フコトニナラウト思ヒマスニ贊成ノ方ハ舉手ヲ願ヒマス

舉手者 少數

○委員長(長島鷲太郎君) 少數——ソレデハ留保ニナツテ居ルトヨロノ六十七條第二項

○島田俊雄君 之ハ先刻段々御質問ノアリマシタコロニ依テ、大體モウ議論ヲスル餘地ハナイカト思フノアリマス、若シ必要ガアルナラバ、更ニ今一回協議ヲセラレテ直ニ……

○委員長(長島鷲太郎君) 別ニ御意見ガ出テ居リマセヌガ、大口君御出シニナリマス

○委員長(長島鷲太郎君) 别ニ御意見ガナケレバ採決致シマス、齋藤君ノ修正意見

カ

○大口喜六君 之ハ島田君カラ出マセヌデスカ

○島田俊雄君 私ハ相談ヲシタデス

○大口喜六君 フレデハ私カラ御手許ヘ修正意見が出シテアリマスカラ、之ヲ大體申述ベマスガ、此六十七條第一項ニアリマスル「利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ第三十

六條第二項ノ書類ノ閱覽ヲ請求シ」トアリマス「第一項」ト云フ二字ヲ削リマシテ、即ニ第二十六條ニ掲ゲテアル書類ハ全部閱覽が出來ルコトニ致シタイ、斯ウ云フノアリ

マス、ドウ云フコトデアルカト云フト、御承知ノ如ク第二十六條ノ書類ト申シマスレバ、一部

般居人カラ出シタ居書デアリマスガ、其中デ一部分ハ一箇月經チマスルト纏ミテ裁判所ニ行ク、一部分ハ其相續人ノ指定トカト胎内ニアル私生兒ノ認知トカ云フモノハ、一部

分ハ其儘縫ヲラレテ役場ニアルガ、假令裁判所ニ行クテモ必要ノアル場合ニハ之ヲ閱覽セシメタトイ云フ意見アリマス、是ハ先刻協議ノ時デアリマシタカ、龍君カラ精シク御述

ヲ偽造致シマシテ出生居ラスルモノモアリマスシ、又隨分若キ女ナドヲ賣春婦ナドニ賣リ

マスルト云フヤウナ事實ニ對シテモ、イロ／＼届書トノ關係上偽造ノモノヲ發見スルコトガアリマス、サウ云フ場合ニ一方カラ訴ヲ起サウシテモ、誰が出シタカ、果シテ如何ナル

屆書が偽造サレテ出テ居ルカト云フコトガ分ラナイタメニ、訴ヲ起スニ困難ヲ起ス事情ガアル、既ニ訴が起レバ證據書類トシテ裁判所カラ出シテ貨フコトハ出來マスガ、訴ヲ起ス

上ニ困難フシマスルシ、果シテ如何ナル偽造ニナシテ居ルカ其點ヲ發見スル上ニ於テモ、

是非トモ是ハ屆書ヲ見ル必要ガアルノアリマシテ、實例ノ上ニ於テ頗ル困シテ居ル、尤モ是ハ澤山アル譯テアリマセヌカラ、裁判所が之ヲ見セラレルコトニナツテモ、一人書記ヲ

テハ極メテ必要ナコトデアリマスカラ、是非トモ是ハ修正シテ屆書全部ノ閱覽が出來ルヤ

ウニシタイ、是ノ關係スルトヨロハ八條ニモ關係シマ

スルガ、成立チマスレバ其時ニ申ス考アリマス

○島田俊雄君

大口君ニ御聽キシタイト思ヒマスガ、アナタノ御趣意ハ三十六條ノ書

類ヲ全部永久ニ見ルコトが出來ルヤウニシタイト云フ趣意アリマスカ、保存セラレテ居

ル間ハ……

○大口喜六君 今ノ修正トシテ出シマシタ結果ハ、御問ノ通リサウ云フコトニナリマスガ、永久デナクテモ、五年ナリ二年ナリデ事實ハ宜カラウト思ヒマス

○島田俊雄君

政府委員ニ御聽キシタイト思ヒマスガ、私モ大體ノ希望ハ大口君ト少

シモ達ハナイ、ヤハリ其必要ヲ認メテ居ルノアリマスガ、政府ニ於テハ先程カラ此三十

六條ノ書類全部ヲ見セルト云フコトハ——裁判所ニヤツタモノヲ見セルノハ理論上カラモ

困ルト云フ御話ガアリマシタ、大體ニ於テ反対ノ御意見ノヤウアルガ、餘程強イ御反

對ニナルノアリマスカ、今少し理論上ト云フ點モ御話ガアリマシタカラ、明確ニ御反対

ニナルナラバ反対ノ理由ヲ述ベテ見テ戴キタイ

○政府委員(法學博士鈴木喜三郎君) 政府ニ於テハ先程申シマスル通り、戸籍簿

ノ目的ハ——戸籍ノ書類ヲ閲覽スルト云フ事柄ハ、是ハ戸籍事務ニ關係スルコトニアリマス、而シテ一體書類が裁判所ニ移サレマシテ、裁判所ガ之ヲ保管シテ居ルト云フコトハ、唯戸籍ニ關スル書類ヲ行政上保存シテ置クト云フニ過ギナインデアリマス、デア

リマスカラ裁判所ニ送付ニナリマシタモノアリマス、併ナガラ市町村役場ニ存在シテ居ル間ニ之ヲ閲覽セシムルコトヲ許スコトニナリマシタ結果、僅カナ期間デハ役ニ立タナイ、長イ間閲覽ヲ許シテ貰

ハナケレバナラスト云フコトニナリマシテ、彼ノ裁判所ヘ送付スベキ時期ヲ延長シテ、此案

一向差支ナインデアリマス、併ナガラ市町村役場ニ存在シテ居ル間ニ之ヲ閲覽セシムル

コトヲ許スコトニナリマシタ結果、僅カナ期間デハ役ニ立タナイ、長イ間閲覽ヲ許シテ貰

ハナケレバナラスト云フコトニナリマシテ、彼ノ裁判所ヘ送付スベキ時期ヲ延長シテ、此案

ハ一箇月内毎ニ送付シロト云フコトニナシテ居リマスガ、此一箇月ト云フ期間ヲ延長シ

テ二年ナリニ二年ナリ一纏メニシテ裁判所ニ送レト云フコトニナリマスルト、其點ハ誠ニ困

ルノデス、何故ト云フト、市町村役場ニ届書ヲ置クト云フト、若シモ市町村役場が焼失

シタ場合ニ、戸籍簿ヲ再製スルコロノ材料ヲ失フ、其材料ヲ得ンカタメニ場所ノ異ナル所ノ裁判所ニ保存セシメテ置クト云フコトデアリマスカラ、餘リ月日ノ長イ間市町村役

場ニ置キマスルト云フト、此目的ヲ達スルコトが出來ナイ、斯ウ云フコトデ、ドウモ御贊成

ヲ申シ兼ネル次第アリマス

○島田俊雄君 此三十六條ノ書類ニ付テハイロ——議論モアリ、政府ノ方ニモイロイ

ロ議論ガアルコトデアリマスケレドモ、實際ノ必要モ非常ニ強イト考ヘテ居リマスシ、又其

必要ナルコトハ委員諸君ニ殆ド全部之ヲ認メテ居ラル、ヤウデアリマスカラ、此六十七條

ノ末項ヘ一ツ項ヲ置イテ「監督區裁判ハ特別ノ理由アル場合ニ限リ第三十七條ノ書

類ノ閱覽ヲ許スコトヲ得」ト云フ一項ヲ設ケテ置キタイ、其一項ヲ設ケサウシテ第二項ノ

「三十六條」トアル下ニアリマス「第一項」ト云フ三字ヲ削ル、即チ戸籍役場ニ在ル間ハ

三十六條ノ書類ハ全部ドレデモ見ブレル、手數料ヲ納メテ——ソレカラ裁判所ニ行ツタ

モノニ付テハ特別ノ事情ノアル場合ト認メタトキニハ、見ルコトヲ許サレル、斯ウ云フコト

ニナシテ御希望モ充タスコトが出來ルシ、又他ノ條文ニ影響ヲ及ボサヌト思ヒマス

○委員長(長島鷺太郎君) 第六十七條ノ二項ニ付テハ、大口君カラシテ修正意見

ガ出テ居ルノアリマス、ソレニ付テ御贊成ノ諸君ノ舉手ヲ請ヒマス

舉手者

満場

○委員長(長島鷺太郎君) 滿場一致デス、ソレカラ島田君ノ末項ノ修正意見ニ御

賛成ノ方ノ舉手ヲ請ヒマス

○島田俊雄君 サウ致シマスト、大口君ニ御相談致シタイト思ヒマスガ、右ノ結果トシ

テ御説ノ如ク百七十八條ノ第三號ニアリマスル「第一項」ト云フ文字ヲ削ラレルコトハ

當然デアリマスガ、八條ノアナタノ御提出ニナシテ居リマスル此手數料ニ關スル規定ハ、モ

ウ修正ヲ御出シニナラヌテ宜カラウト思ヒマスガ

○大口喜六君 必要ガナインデ撤回致シマス

○島田俊雄君 ソレデハ第百七十八條ノ第三號ノ「第一項」ト云フノヲ削ルト云フ修

正案ヲ提出致シマス

○委員長(長島鷺太郎君) 島田君ノ修正意見ニ御贊成ノ方ノ舉手ヲ請ヒマス

○齊藤隆夫君 私ハ此戸籍法ノ可決セラレテ、委員長が議會ニ報告セラル、ニ方リマ

シテ、委員長ニ一言要求シテ置キタイ……

○委員長(長島鷺太郎君) チヨト待ツテ下サイ——ソレカラ字句ノ修正デス、イロイロ

ナ修正ガアシテ——字句ノ修正ノコトハ是ハ委員長及理事ニ御一任ヲ願ヒマス

○齊藤隆夫君 ソレハ外デアリマセヌガ、今回此政府ガ戸籍法ヲ提出セラル、ニ至ツタ

主要ノ原因ハ、身分登記簿ヲ廢スルト云フコトデアリマス、此身分登記簿ハ斯ク現戸籍

法制定以來十數年ノ経験ニ徴シテ、非常ニ繁雜ニシテ實益ナク、且ツ是ガタメニ費用ヲ

要スルト云フ経験ヲ得ラタガタメニ、此身分登記簿ヲ廢スルト云フコトニ相成ルノアリ

リマス、此點ニ付テ私モ非常ニ贊成デゴザイマスガ、サウスルト云フト現戸籍法制定ノ當

時ニ於テ將來ニ於ケル身分登記簿ノ效果及ビ手數並費用ト云フコトニ關スル法律起

案者ノ考ヘハ周密ナカタト云フガタメニ、斯ク十數年ノ間幾百幾千ノ此町村役場が

種ミナ無益ナル繁雜ノ手數ト費用トヲ掛ケテ居ッタソ、是が全ク起案者ノミニ罪デモナ

ク、是ニ協贊ヲ與ヘタコロノ議會が責任ヲ負ハナクテハナラヌノアリマスガ、併シ御承

知ノ通リ、議會トシテモ短カイ期間デアツテ、サウシテ斯ウ云フヤウナコトニ付テ深ク考ヲ費

スルト云フコトモ違ガナクシテ、専ラ起案者ノ學識ト經験ニ信頼シテ協贊ヲ與ヘルノアリ

マスカラシテ、斯ウ云フヤウナコトニタメニドレダケノ國家國民が損害ヲ受ケテ居ルカ分ラヌ

シテ此改正ニ贊成ヲシタト云フコトヲバ、委員長ノ口カラシテ一言其議會ニ於テ御報告ヲ

願ツテ置キタイ、若シ委員長ニシテ是ダケノコトヲ言ハレヌト云フナラバ私ハ賛成演説トシテ之ヲ言フ積リテアリマス

○島田俊雄君 唯今ノ齋藤君ノ御説デアリマスガ、ソレハ 私等モ賛成デアリマスケレドモ、委員長ノロカラニ之ヲ報告セシムルト云フコトハドウモ穩當デナイト思ヒマスカラ

○齋藤隆夫君 斯ウ云フヤウナ説ガアツタ云フコトヲ……

○委員長(長島鷲太郎君) ソレデスガ、ソレハ齋藤君一ツ——ソレデハ今ノ 齋藤君ノハ御意見トシテ承ツテ置キマス、又委員長ハ委員長トシテ意見ガアリマスカラ——是デ散會致シマス

午後五時十八分散會